

会 議 録

- 1 会 議 名 令和3年度 第2回 北九州市自殺対策連絡会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上の会合
- 3 議 題
 - (1) 開会
 - ・事務局挨拶
 - ・委員自己紹介、各所属の自殺対策の取組紹介
 - ・議長、副議長の選出
 - (2) 報告事項
 - ・直近の自殺の状況について
 - ・北九州市自殺対策計画見直し【第2回】および評価【第3回】について
 - ・令和3年度自殺予防週間の取組について
 - (3) 協議事項
 - ・ゲートキーパーの養成について
 - (4) その他
 - ・令和4年3月（自殺対策強化月間）の取組について
- 4 開 催 日 時 令和3年11月2日（火）
18時00分 ～ 19時25分
- 5 開 催 場 所 北九州市立精神保健福祉センター セミナー室1及びオンライン
(北九州市小倉北区馬借1-7-1 5階)
- 6 出席者氏名
別紙「令和3年度第2回自殺対策連絡会議出席者」のとおり
- 7 議 事 概 要
 - (1) 開会
 - ア 事務局挨拶
 - ・事務局にて開会宣言を行った。
 - イ 委員自己紹介、各所属の自殺対策の取組紹介
 - ・出席した委員が順に自己紹介を行い、併せてそれぞれの団体の取り組みの説

明を行った。

ウ 議長、副議長の選出

- ・議長および副議長の選出を行った。

議長：福岡県弁護士会 北九州部会 弁護士 油布 剛 委員

副議長：学校法人 産業医科大学 医学部 精神医学教室 吉村 玲児 委員

(2) 報告事項

ア 直近の自殺の状況について

- ・厚生労働省自殺対策推進室が公表した全国の「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」の説明

コロナ禍となった全国の令和2年は、前年と比べ11年ぶりに自殺者が増加した。特徴として、女性と若年者層の自殺が増加した。

- ・今年(令和3年)について

速報値で15,895人(1月～9月)となっており、対前年比632人(約4.1%)増となっている。また、男女別の月別自殺者数の推移について、対前年比で女性の自殺者数の増加が見て取れる結果となっている。

- ・北九州市の自殺者数の推移の説明

令和2年は全国と同様、自殺者数が増加した。また、月別の推移は、令和3年度10月末現在(9月まで)の暫定値では134人となっており、対前年比15人(12.6%)増となっている。北九州市の状況についても注視していく必要がある。

イ 北九州市自殺対策計画見直し【第2回】および評価【第3回】について

- ・北九州市自殺対策計画についての説明
- ・「見直しについて」の説明

充実・強化する事業として、「関係機関・団体との連携推進」、「女性や若者を対象とした広報・啓発の強化」を掲載した。また、新たに追加する事業として「産婦健康診査事業」、「性犯罪等防止に向けた広報啓発や相談の実施」、「ウーマンワークカフェ北九州における相談事業」を掲載した。新型コロナウイルス感染症の拡大等に伴うこころのケアとして、こころの相談窓口の開設等に取り組んでいることを説明。

- ・令和4年度は計画見直しに向けて、評価の年である。

ウ 令和3年度自殺予防週間の取組について

- ・自殺予防週間及び取組内容の説明

令和3年8月19日～令和3年9月20日の期間に、「検索連動型広告を活用したこころの相談窓口の周知」として、インターネット上で「死にたい」などの自殺に関連すると考えられるキーワードを検索したときに、広告文を表示し、相談窓口やストレスケア・こころのケア等に関するホームページへ誘導し、実際の相談へつなぐ仕組みを実施した。結果は、表示回数は3,552回、その内、実際にクリックし相談(リンク)先に飛んだ回数は756回であ

った。この結果は同様の取組を行っている他市町村よりも高い比率であった。

また、自殺予防週間中の9月10日から16日にかけて、「北九州市こころの相談電話の相談対応時間の延長」を行った。通常は9時から17時の相談対応時間を20時まで延長し、1日当たりの相談件数は3、4件であった。

加えて、区役所の掲示板や、SNS(フェイスブック等)、JR、モノレールやハローワークなど、期間中に様々な場所や方法で啓発した内容を取りまとめて紹介。

(3) 協議事項

ゲートキーパーの養成について

- ・「ゲートキーパー」及び本市の取組について説明。

現在、北九州市では、ここ数年、主にボランティアの方や関係機関従事者を対象に、ゲートキーパー養成研修を行っている。具体的には、メンタルヘルスファーストエイド研修や、出前講座等がある。

(メンタルヘルスファーストエイド研修とは、心の健康に関する知識や、初期対応方法を学ぶ研修)

一般住民を対象として、これまで、「こころの体温計」や「ひとことの力」などの広報や啓発を行ってきた。

しかしながら、昨今のコロナ禍において、社会のひずみが露わになり、辛く苦しい思いで生活されているが、なかなか相談に繋がらないといった課題を感じている。

- ・協議内容について

北九州市が今後、自殺対策を強化していくために、家族や近所の方など身近な人から声を掛け合う取組が必要なのではないか、といった意見が所内であり、一般住民の方を対象としたゲートキーパー養成研修に力を入れて、声を掛け合える、話を聞き合える地域づくりの一助にしたい。

そのためにも、本日出席の委員の所属する団体と、何か一緒になってできることはないか、多くのご意見をいただきたい。

(4) その他

- ・令和4年3月(自殺対策強化月間)の取組について

8 会議経過(発言内容)

【7-(2)-ア 直近の自殺の状況について】

- ・委員： 令和3年、全国的には若者の自殺が増加しているとのことであるが、北九州の状況はどうなっているのか。

→事務局： 国の公表している数字では、令和2年の1～9月の数字は20歳未満の数字が2人とあるが、令和3年は9人となっている。それよりも細かい内訳については公表されていない。

【7-(2)-イ 北九州市自殺対策計画見直し【第2回】および評価【第3回】について】

- ・ 議長： 北九州市自殺対策計画について、概要8頁「見直しについて」に記載している事業は今年度の4月から開始しているのか。
- 事務局： 見直し時点ですでに実施してあった事業も含まれているが、現在すべて実施している。
- ・ 議長： その事業の成果はまだ出ていないのか。
- 事務局： 自殺対策計画に記載し、意識を高めて事業を実施していくという状況であり、すぐに効果が出るものではないと認識しているが、事業実施を行うことでアンテナを張って、多方面から評価・検討を行ってまいりたい。

【7-(3) 協議事項 ゲートキーパーの養成について】

- ・ 委員： ゲートキーパーの養成について、具体的にどのような計画をしているのか。
- 事務局： 現在行っている研修等を引き続き行っていくが、例として、委員の皆様との関係者が集まる機会に、精神保健福祉センター職員が出向き、講座を開催させていただくといったことを考えている。
- ・ 委員： ゲートキーパーの養成講座については、各地域の定例会等で受講することは出来るが、受講者は、受講することで何がどう違うのか。
- 事務局： ゲートキーパーといったものは、特に資格といった位置付けではなく、研修を受講したから何が可能かといったことも決まっていない。日常的に生活をしていく中で、身の回りの人に「声掛け」を出来る方が市内にたくさん増えていければ、社会全体を変えていけるのではないかと考えており、受講者を中心に何かを広げていくといったことを狙いとしておらず、一人一人の意識作りを前提に行っていきたい。
- ・ 委員： 平成27年から地域支援コーディネーターの配置といった事業を行っている。市内に16人いる。コーディネーターを対象とした研修を毎年組んでおり、メンタルヘルスファーストエイド研修を入れたい。また、社会福祉協議会の出前講演メニューの中にこういった講座を入れていくことが可能。しかし、「ゲートキーパー養成」や「メンタルヘルスファーストエイド」といった表現（名称）が、広報の際にもっと分かりやすい（地域の人が興味を示す）表現になればと思う。また、平成30年から市民センターに相談員を配置する地域生活支援相談員という事業があり、最近相談が増えている。こういった取組にも同様に広げていきたい。
- 事務局： 表現（名称）について、是非とも参考にさせていただく。

- ・委員 : 以前に「困ったときはお互い様の社会づくり」という言葉を文献で見たことを思い出した。参考までに。
- ・委員 : 研修内容に、養成研修を受けた人が相談を受けた後に具体的に紹介できる繋ぎ先の内容について盛り込まれているのか。
- 事務局 : 繋ぎ先については、研修内で具体的に説明している。
- ・委員 : 普段、民生委員等が行っていることが正にゲートキーパーであると感じている。養成という表現について。
- 事務局 : 表現の内容についても、お時間いただいて説明差し上げたい。
- ・委員 : どういった方が研修の対象になるのか。
- 事務局 : 複数人のグループが現状多いが、特に定めてはいない。
- ・委員 : 時間が経ったら研修内容を忘れてしまうこともある、研修内容の動画などを作成してもらえば、定期的に見直して思い出しができる。
- ・委員 : 認知症サポーター養成講座の仕組みを応用できればいいのではないか。また、若者と女性の自殺者数の増について、ICTを活用した自殺対策はあるのか。
- 事務局 : ICTを活用した自殺対策については、令和3年度の9月にインターネットを活用した検索連動型広告を行った。その中で厚生労働省の行っているチャットやLINE等で行っているSNS相談事業にリンクした。北九州市としては、同様の形態で引き続き行ってまいりたい。

【4 その他】

- ・委員 : 自殺対策強化月間（3月）の活動展開を知りたい。
- 事務局 : 9月の自殺予防週間に行った啓発については、3月も同様に実施してまいりたい。また、残念ながら中止となってしまった9月のシンポジウムについても、3月に企画をしている。決定次第、委員の皆様様に周知する。

9 問い合わせ先 保健福祉局総務部精神保健福祉センター
電話番号 093-522-8744